

## 六、運動 座談会「学苑懷古」-----第一県女新聞第3号（昭和23年12月発行）より

**築瀬** 「選手制度が大正7、8年頃から始まった。排球庭球は特に優秀で、東京へ行っても何時も優勝した。『ガバーレンジョダイコン』という応援電報を打った事がある。運動会では全校が試合をした。全職員が運動した。一人もラケットを振らぬものはなかった。職員チームもよく優勝した。私も大分上手になった。」

大正末期からの運動部の活躍、運動会の様子について『皆実有朋八十周年記念誌』『皆実有朋九年史』『皆実有朋百周年記念誌』から紹介します。

庭球そのものは県女開校の頃から親しまれています。着物の長い袖を翻して校庭で庭球を楽しんだようです。2代斎藤校長が、木綿の筒袖を奨励する前のことです。

県外の試合が開催されるようになり、庭球部は大正13年（1924年）の第3回関西女子庭球大会で阿部・井上組が優勝したのを皮切りに、全国大会で準優勝など活躍が続きました。昭和7年（1932年）は、栗山・鎌田組が県大会すべてに優勝して、大石・伊賀組とともに、第15回全日本女子庭球大会に出場。二組とも準々決勝まで進みました。



関西女子庭球大会で優勝の阿部・井上組(大正13年)

出典：『皆実有朋九十年史』



県大会すべて優勝の栗山・鎌田組(昭和7年)

出典： 2011-005-有朋32期

その後も活躍は続き、全国大会優勝だけをあげると、昭和8年(1933年)の第1回全国女子中等学校庭球大会で大石・伊賀組が優勝。同年第16回全日本女学校庭球大会で大石・伊賀組が優勝、一学年後輩の永山・佐久間組が準優勝。そして、昭和9年の第17回大会では、永山・佐久間組が優勝しました。



全日本女子庭球大会で優勝と準優勝を分けた、大石・伊賀組と永山・佐久間組（昭和8年）

出典：『皆実有朋九十年史』

昭和 9 年の神宮庭球大会では、一般女子の部と女子中等学校の部で森田・成田組が優勝。この神宮大会（伊勢）では優勝旗 2 本、賞状 8 枚、メダル 12、カップ 2 個すべてを獲得しての凱旋でした。



森田・成田の凱旋を祝って（昭和 9 年）

出典：第 29 回卒業アルバム① 2020-002-有朋 29 期

昭和 15 年(1940 年)第 23 回全日本女学校庭球大会と、明治神宮国民体育大会の女子中等学校兼昭和 15 年度日本選手権大会の部で新藤・棚谷組が優勝。卒業アルバムのほぼ 1 ページを飾っています。



出典：第 35 回卒業アルバム② 2013-023-有朋 23 期

排球部（バレーボール）は大正 14 年（1925 年）創部。昭和初期、市女（広島市立高等女学校）は良きライバルでした。昭和 3 年（1928 年）、昭和 4 年、昭和 7 年の全日本排球大会では準優勝でしたが、昭和 9 年、昭和 10 年と連続優勝し、昭和 11 年には朝鮮排球協会から招聘され、朝鮮に遠征しています。



排球部地区大会優勝（昭和9年）

出典：2020-002-有朋29期

全日本排球選手権大会で2年連続優勝（昭和10年）

出典：『皆実有朋九十年史』

**籠球部**（バスケットボール）は、昭和初期に山中高等女学校、市女に続き、県女にも創部されました。昭和7年（1932年）には関西女子選手権、第1回広島県選手権で優勝し、昭和8年の明治神宮体育大会籠球の部に、自分たちで縫った紺色のユニフォームを着て出場。惜しくも3回戦で敗退しました。



関西女子籠球大会で優勝（昭和7年）

出典：『皆実有朋九十年史』



明治神宮大会に出場（昭和8年）

出典：第28回卒業アルバム③ 2023-003-有朋28期

**陸上競技部**は大正13年（1924年）第1回明治神宮大会の陸上競技で、織田が三段跳び2位、高島、小野、松浦、吉田が400mリレーで3位に。『広島スポーツ100年』によると、「昭和初期県内の学校対抗では県女が断然強く、特に短距離陣が強かった。昭和12年（1937年）頃、県女の岩井姉妹の活躍が有名で、姉美代子は短距離と砲丸投げ、妹の史江は100メートルで12秒7の好記録で、全日本ランキング3位、オリンピック候補にも選ばれたほど。その後も山陽選手権をはじめ、県内では100mで不敗の花形選手だった。」とあります。



明治神宮大会400mリレー第3位（大正13年）

出典：『皆実有朋九十年史』



競技部（昭和13年）

出典：第34回卒業アルバム④ 2021-004-有朋34期

**水泳部**は県立二中や広島文理大、広島高校のプールを借りて練習をしていました。昭和13年（1938年）県下女子中等学校水泳大会で創部以来の優勝。昭和15年明治神宮国民体育大会に、広島県の選手として綿貫、永井が出場しています。また、第5回広島県水上選手権大会の200mリレーで、タッチの差で見事優勝しました。



広島県下女子中等学校水泳大会で優勝（昭和 13 年）

出典： 2011-004-有朋 39 期



県立二中のプールで（昭和 11 年夏）

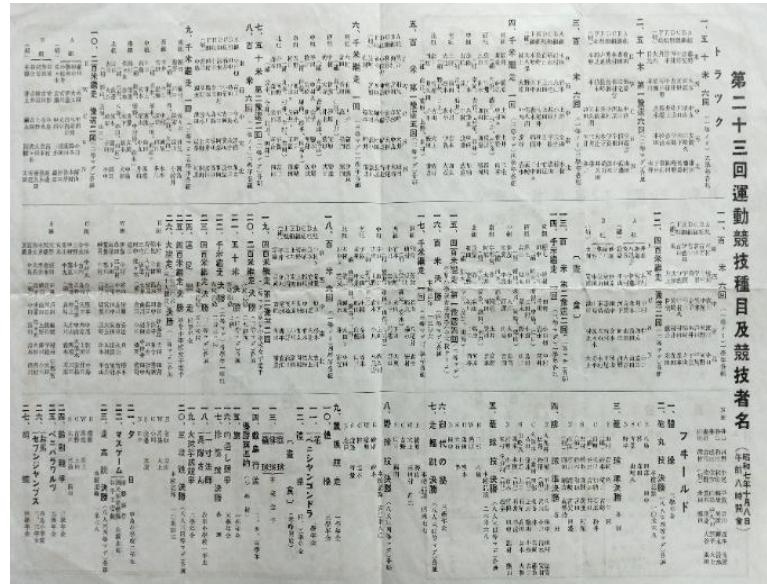
出典： 2013-017-有朋 34 期

昭和 7 年（1932 年）の第 23 回運動会のプログラムがあります。午前 8 時開会でトラックの部 26、フィールド技の部 27、合計 53 のプログラムで、1 年生から 5 年生までの東・西・南・北・中組対抗で熱戦が繰り広げられます。トラックの部では 50 米(メートル)走、100 米走、200 米継走(リレー)、1000 米継走が予選、決勝戦と繰り広げられ、2700 米 30 人継走の大継走まであります。フィールドでは、体操、ダンス、学年ごとの競技や集団演技、砲丸投げ、野球投げ、籠球（バスケットボール）、排球（バレーボール）、近隣の小学生の参加など大々的です。まさに“全校が試合”です。



第 23 回運動会プログラムの表紙（片面は広告）

出典： 2010-009-皆実有朋会



53 もの競技名と競技者名が書かれたプログラム

当時クラスは 5 年間変わらず、体操服の上着の裾にはクラスごとに色の違う線があり、組の旗もありました。遠足の時は運動会の時の順位で出発順を決め、「東 E」「西 W」「中 C」「南 S」「北 N」の組の旗を掲げて歩きました。



準備体操



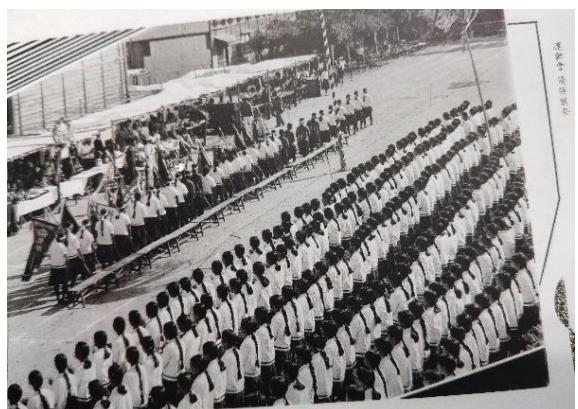
リレー 200m、400m、1000m、2700m の大継走も

出典：『皆実有朋九十年史』



優勝をかけた俵運び(タンク)競争

出典：『皆実有朋九十年史』

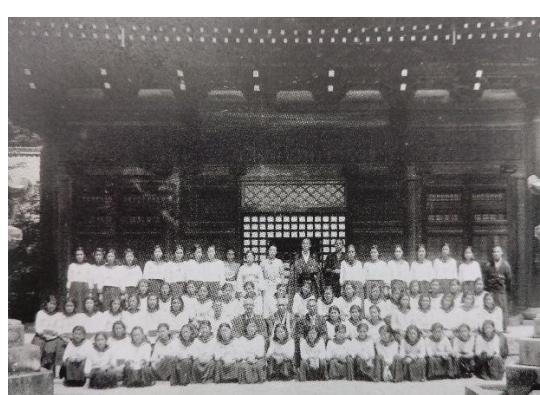


運動会で各部の優勝披露-優勝旗祭(ポストカード)

出典：2018-005-有朋 42 期

**築瀬** 「生徒有志の林間生活は大正5年頃から始まった。可部の福王寺が最初で仏通寺は昭和4年から山県郡の本地、比婆郡の庄原へも行った。水泳は倉橋島で十年位続けた。坂でも長く続いた。強行軍もよくやった。大正5、6年頃から呉までかけ足をやって昼を食い、そのあとで職員チームが呉の県女チームとテニスの試合をしたこともある。先生も皆元気があった。宮島や岩国へも徒った。準備というか足を慣らして十分にやったから事故はなかった。」

林間生活は3年生以上の希望者が参加。鐘を合図に起床、早朝掃除、食前食後の読経、法話を聞く7日間の生活でした。

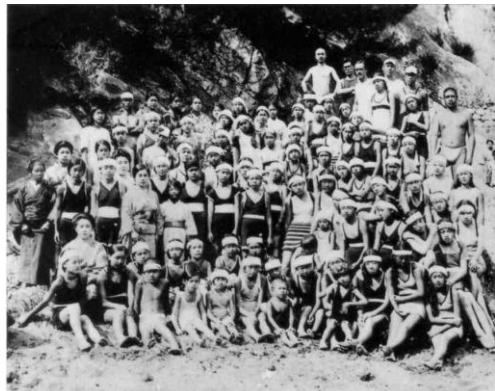


可部福王寺林間生活（大正 12 年）

出典：『皆実有朋九十年史』

仏通寺林間生活団（昭和 15 年）

臨海生活は希望者により宮島、倉橋島で行われていましたが、1年生全員と2年生以上の希望者参加の形に、場所は安芸郡坂村に変わりました。宇品から数隻の蒸気船に乗り坂村の海岸に通ったとあります。昭和 12 年は「臨海生活団」と書かれ、訓練の意味が強くなっています。



倉橋島での臨海生活（大正 13 年）

出典：『皆実有朋九十年史』



坂での臨海生活団（昭和 12 年）

出典： 2013-016-有朋 39 期

遠足はほとんどの行程が徒歩で、体力増強に一役買っていました。昭和初期には毎月 1 回の小遠足、春秋どちらかの「十里遠足」ともいわれる大遠足、4 月の新入生歓迎遠足、2 月の 5 年生を送る八木、草津梅林への遠足がありました。運動会の成績順に行進し、町中を歩くときは無言、郊外に出てやっと会話が許可され合唱も始まったそうです。今とはかなり様子が違いますね。左下の写真は、運動会で優勝した 5 年南 (S) 組が先頭です。



大竹へ大遠足 井口付近（昭和 8 年頃）

出典: 2014-010-有朋 27 期



可部福王寺へ遠足（昭和 12 年頃）

出典：第 36 回卒業アルバム⑤ 2019-002-有朋 36 期



送別梅林遠足（昭和 11 年 1 月頃）

出典：2015-004-有朋 30 期



チヤス牧場でサクランボ取り（昭和 7 年 5 月）

出典：2014-010-有朋 27 期

ほかにも学年別の遠足、健康組・中健組・病弱組に分かれての遠足などがありましたが、残念ながら写真は不明でした。

学校生活の中には、1 期生から実施した修学旅行や、多くの行事、文化的な活動がありましたが、「学苑懐古」はこの（六、運動）で止まっています。

\* \* \* \* \* 出典 \* \* \* \* \*

記述内容は広島県立広島皆実高等学校発行の『皆実有朋八十周年記念誌』（昭和 57 年）、『皆実有朋九十年史』（1991 年）、『皆実有朋百周年記念誌』（平成 13 年）を参考とした。

#### 【資料記載について】

「2011-005-有朋 32 期」：2011 年度 5 番目に登録した、有朋 32 期生に関する、卒業生ご自身あるいはご遺族により寄贈されたアーカイブズ資料。

「2010-009-皆実有朋会」：アーカイブズ委員会発足の平成 23 年（2011 年）以前に皆実有朋会に寄贈されていた資料を 2010 年度登録資料とした。その 9 番目に登録した、寄贈者が不明のアーカイブズ資料。

#### 【卒業アルバム 各標題紙の書名】

各標題紙には「第何回の卒業記念」「日付」「学校名」が様々にレイアウトされている。本文中では「第〇回卒業アルバム」と統一して記載した。

- ① 『昭和十年三月 第二十九回卒業記念 広島県立広島高等女学校』
- ② 『第三十五回卒業記念 広島県立広島高等女学校』
- ③ 『第二十八回卒業記念 昭和九年三月 広島県立広島高等女学校』
- ④ 『皇紀二千六百年三月 第卅四回卒業記念 広島県立広島高等女学』
- ⑤ 『第廿六回卒業記念 皇紀二千六百二年三月 広島県立広島高等女学校』